

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502785		
法人名	特定非営利活動法人実りの里りん		
事業所名	グループホーム凜		
所在地	北海道札幌市白石区米里3条1丁目2番4号 (電話) 011-873-1313		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年7月31日	評価確定日	平成20年10月1日

【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年7月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	16,000~21,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	勤医協中央病院、札幌トロイカ病院、琴似ファミリークリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、閑静な住宅街にあって、平屋建てで、他の民家と同じたずまいで建っている。前庭や近くの農園では、種々の野菜を植えており、農作業経験のある利用者の楽しみとなっているとともに、旬の野菜料理が食卓を賑わせている。運営者・管理者・職員は、利用者と家族のように親しんでおり、穏やかで暖かな人間関係を構築している。同法人の関連事業所の事務所が、同じ建物内にあることから、その職員とも利用者は馴染みの関係にあり、夜勤は2人体制を実現している。事業所の理念である「三つのりん、凜(りんとして)・鈴(笑顔で)・輪(地域と輪になって)」に向け、運営者・管理者・職員が丸となって、熱意をもって事業所の運営に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題はないが、管理者・職員は、常に話し合いを重ね、ケアサービスの質の向上を目指している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員で取り組み、検討を重ね、運営者と管理者がまとめている。職員は、評価の意義を理解し、利用者の日々の生活や、ケアの質の向上に反映させている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催し、地域住民・地域包括支援センター職員・家族・職員で、活発な意見交換を行っている。会議では、事業所の取り組み状況、自己評価・外部評価の内容などを報告し、推進会議を通して地域との連携を深め、協力関係を築いている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者・職員は、家族の来訪時には、気軽に声をかけをし、意見・要望・苦情・その他どんな事でも話せるよう、雰囲気づくりに配慮している。重要事項説明書には、外部の苦情申し立て機関も明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	事業所では、散歩や外出時など、地域の人々との交流を大切にし、挨拶を交わすよう心がけている。町内の行事には、利用者の状況を見ながら、可能な限り参加している。町内行事の野外パーティでは、利用者のために席が用意されている。また、近隣から、畑の収穫物や花をもらったり、庭や畑の消毒をしてもらうなど、交流は多い。事業所では、裁縫が得意な利用者が縫った雑巾を、地域で役立ててもらおうとも考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「三つのりん、凧（りんとして）・鈴（笑顔で）・輪（地域と輪になって）」を、事業所独自の理念として掲げ、地域の暮らしの中で実現していくことを目指し、日々励んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、理念を共有し、一体となって、その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所と近隣との交流は多い。町内会に加入し、利用者の状況に応じて、ごみ拾い・夏祭りなどの、地域活動にも参加している。町内行事の野外焼肉パーティでは、利用者のために席が用意されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価において、指摘があったり気づきにつながったことは、カンファレンスで話し合い、利用者の生活や、ケアの質の向上につなげるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1度開催しており、事業所の取り組み状況等の報告を行っている。町内会員・利用者家族・地域包括支援センター職員などの参加者の間で、活発な意見交換を行い、そこで出た意見を、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者に、事業所の運営や職員の配置、事故の報告や相談をしており、それらを通して交流を持ち、市町村との連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、利用者の生活や健康状況、受診の状況を報告している。金銭管理についても、確認を得ている。必要に応じて電話連絡もし、事業所便りや金銭明細と一緒に、個々の家族宛に、たよりの発行もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族来訪時には必ず声かけをし、意見や要望・不満・苦情を、気楽に表せるように配慮している。重要事項説明書には、外部の苦情申し立て機関名も明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は、開設以来の職員が多く、職員と利用者との馴染みの関係は深い。やむを得ず異動を行う場合には、運営者は、担当者配置を徐々に換えたり、職員間での情報共有を凶って、利用者にはダメージを与えないよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月2回、法人内職員を含めて行っている。外部研修については、職員に情報を周知し、自己研鑽の機会を提供している。研修内容は、カンファレンスで報告し、記録と共にファイルしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、区の管理者会議に参加し、同業者と交流をしている。同業者の事業所訪問見学や、情報交換を通して、サービスの質の向上につなげるよう努力している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所のサービス利用を始める前には、見学や話し合いを十分行い、事業所の雰囲気馴染めるよう、利用者や家族とも相談しながら、納得のいく利用開始となるよう工夫している。また、体験利用も、希望があれば受け入れている。利用者の家族の宿泊も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者のできないことを支援する一方で、人生の先輩として敬意を持って接し、生活の知恵や体験談を教わることも多い。職員の子供が、事業所に来て手伝うことがあるが、利用者が孫のようにかわいがったり、注意したりする姿も見られ、家族のような関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の生活歴や暮らし方の希望、家族との関係を把握し、その人らしく生活するためにはどうすればよいのかを、利用者本位に検討する取り組みをしている。利用者の1日の様子は、連絡ノートに記録し、職員同士で情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員には、1年毎の利用者への担当制を導入している。利用者家族の要望や、利用者の日々の生活の変化や気づきなどを把握し、ケアカンファレンスで話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎に見直しを行っている。利用者の身体状況に変化があった場合には、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を新たに作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況により、柔軟な対応やサービスを行っている。利用者の親族に会うため、九州に職員が同行したり、墓参の支援をしたり、利用者の要望で福袋の購入に付き添いをすることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、訪問診療を受けている。特別な変化があった場合や緊急時における、医療機関の受け入れ体制もできている。利用者及び家族の希望するかかりつけ医についても、事業所と医療機関の関係を築きながら支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では、利用者・家族の希望に応じ、職員全員で方針を共有しながら、終末期の利用者を看取った経験がある。利用者の状況に変化があった場合には、家族・医師・事業所との3者面談の場を設け、話し合いを重ねながら可能な限り希望に沿う体制にある。職員は終末期の介護について、勉強会も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りを大切にし、自尊心に配慮した対応を心がけている。トイレ誘導時も、さりげなくそっと声をかけている。また、個人記録については、取り扱いと保管を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者のその日のペースを大切にしながら、体操・散歩・入浴・デイケア利用など、無理のない、自由な形で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者の希望を採り入れており、心を込めた職員の手打ち蕎麦や、合鴨農法によるご飯などが、食卓を彩る。利用者の力量に応じて、職員と一緒に準備や片付けを行い、食事が楽しいものになるよう工夫や配慮をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3～4回のペースで、利用者の希望を採り入れたタイミングに合わせて、行っている。毎日、足浴をする利用者もいる。利用者との話し合いで、夜間入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の外に、趣味の習字を習いに行く利用者もいる。畑仕事・洗濯物干し・調理・掃除など、思い思いの気晴らしや楽しみを、自然な形で支援している。簡単な立ち上がり体操は、利用者の日課となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園への散歩を日課とし、デイケア利用・夏祭り見物・外食・買物など、気候のよい日は、戸外に出かける機会を多く設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、防犯上夜間のみ施錠している。利用者の居室は、終日鍵はかけてない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所内での災害時マニュアルを作成しており、災害時には、それに沿って避難誘導を行うことになっている。年2回、火災時の非難訓練を行い、夜間を想定した訓練も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内栄養士の確認を受けて、栄養バランスの取れた食事を提供している。水分摂取量・食事量も記録しており、また、きざみ食や、とろみ食の利用者もいるなど、一人ひとりに合わせた食事支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である居間は、台所を中心に、利用者の動向がわかる配置となっている。居間からは、サンデッキに出られ、椅子テーブルで夕涼みをしたり、庭を眺めることができる。利用者の行事の時の写真や、書の額・生け花を飾り、季節感のある居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの物を持ち込み、その人らしい居室となっている。		

※  は、重点項目。